

サービス業の視点を重視し地域に密着した各種介護保険サービスを提供

医療法人あすか会 奈良県奈良市

『医療法人あすか会』（2002年設立）は、奈良市・生駒市を中心に介護老人保健施設、小規模多機能ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の運営と、在宅診療、訪問看護、訪問介護など各種介護保険サービスを幅広く提供するグループである。

住み慣れた地域で安心して穏やかな生活が続けられるように、病気を治すことはもちろんのこと、医療サービス・保健サービス・生活機能に重点を置いた継続的なリハビリテーションケアサービスを、グループ内の様々な施設を連携させて切れ目なく総合的に提供。「サービス業としての視点」を常に大切にして、地域の利用者に喜ばれる事業運営に務めている。

会社概要



榎木 理事長

会社名：医療法人あすか会
所在地：奈良県奈良市帝塚山2丁目21番21号
電話：0742-44-3300
FAX：0742-44-2100
設立：2002（平成14）年8月
代表者：理事長 榎木 晋作 氏
資本金：6,250万円
従業員：224名（パート含む）
事業内容：医療保険業
URL：<https://asukakai.or.jp/>



法人が本拠地を置く「介護老人保健施設アンジェロ」。診療所「あすかホームクリニック」も併設している。

2019年7月にオープンした「介護老人保健施設ハピリス」。ガラス張りの明るいカフェが富雄川沿いの道路からよく見える。



偶然の出会いから老健施設運営の世界に

『医療法人あすか会』を率いる榎木晋作理事長（55歳）は大阪府出身で、大学卒業後は大手ホテルに就職しサービス業の最前線で働いていた。そんな中ホテルのある顧客との偶然の出会いをきっかけに、転職して介護老人保健施設（老健）※運営の世界に身を投じることとなった。

※介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、療法士等によるリハビリテーションや栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設。

あすか会の創業者である先代理事長は医師で、当時医療業と並行して介護保険施設の運営に参画しようとしていた。そんな時に先代と知り合った榎木理事長は、強く請われてあすか会の老健施設の立ち上げに奔走することになった。

県内初の「ユニット型老健施設」を立ち上げ

そうして2006年9月にあすか会として最初に完成させた施設が「介護老人保健施設アンジェロ」（奈良市帝塚山）である。当時県内初の事例で関西にもほとんど存在しなかった「ユニット型※老健施設」として準備を進めたが、前例のない取り組みに周囲には反対の声もあった。

※できるだけ自宅に近い環境で一人ひとりの個性と生活リズムに合わせた「個別ケア」をすることで、それぞれの自立を尊重し、維持期・生活期のリハビリテーションを行う環境のこと。

しかし前職のサービス業の経験から榎木理事長は、「利用者の方々には快適に過ごしたいというニーズがあるのだから、その視点で多床室（大部屋）ではない配慮の行き届いたユニット型の施設を作れば必ずうまくいく」との信念で建設を決定。結果、診療所「あすかホームクリニック」を建物内に併設している安心感もあり、利用者の思いや快適さに配慮したこの施設はすぐに人気を集めた。

利用者重視の信念を反映させた施設を次々開設

2011年に先代が亡くなり、後継者として法人の運営を担うこととなった榎木理事長は、2013年5月に「小規模多機能ホーム／グループホーム アンジェロ^{みつがらす}三 碓の里」（奈良市学園大和町）を開設。在宅生活をより長く継続させることを重視した施設で、通所を中心に泊りや訪問を組み合わせたサービスをフレキシブルに提供可能にした。これにより個々の利用者に寄り添ったきめ細やかな対応が可能となり、また一つ、「サービス業の原点に立ち返り利用者の気持ちを重んじる」という榎木理事長の信念を具体化した施設が誕生した。

次いで2015年11月には「サービス付き高齢者向け住宅^{ココデ} Cocode 百楽園」（奈良市百楽園）を開設。これまであすか会グループ内で整備を進めてきた老健、診療所、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション等が緊密に連携して各種専門職の途切れないサービスを受けられることもあり、ここもすぐに人気の施設となった。

2019年7月に新施設「ハビリス」がオープン

そんなあすか会グループに、2019年7月、新たに「介護老人保健施設ハビリス」（生駒市上町）が加わった。アンジェロと同じく全室個室のユニット型で、在宅復帰をスムーズに行うための様々な工夫が施されている。



（左上から時計回りに）自動演奏ピアノも備えたハビリスのカフェスペース／「一番景色のいい部屋を」と榎木理事長がこだわったリハビリコーナー／明るく広い通所リハビリテーションルーム／まるで家庭のような快適な居心地のユニットリビング

富雄川沿いにある大きなガラス張りの開放的で明るい施設は1階に一般客も気軽に利用できるカフェを併設しており、入所者が自発的な意欲を持って自室からカフェに向かうことで自然にリハビリ運動につながる仕掛けにもなっている。

浴場は車いすごとエレベーターに乗って大きな浴槽につかれる構造で、利用者、介護者ともに負担が軽い。こうした榎木理事長の豊富な経験に基づくこだわりとアイデアが随所に反映されている。

また同法人では、2020年4月のオープンを目指し「看護小規模多機能ホーム^{とびむら}＊／グループホーム ハビリス鷺邑」（生駒市上町）も現在建設中だ。

＊通い、泊り、訪問看護・リハビリ、訪問介護、ケアプランのサービスを一体化して、一人ひとりに合わせた柔軟な支援を提供するトータルケアの事業所のこと。



「ハビリス鷺邑」（2020年4月オープン予定）の完成予想図

思いを込めた快適なサービス提供を続ける

「迷った時には前職のサービス業時代の経験が今も自分の基準であり^{いしずえ}礎となっている」と振り返る榎木理事長。スタッフの労働環境整備においても“人材第一”というサービス業の視点を取り入れており、男性スタッフも利用しているほど使いやすい育児休暇制度を採用するなど、風通しが良くコミュニケーションの豊富な職場づくりを心掛けています。

「介護保険サービス事業は地域と一体にならないと成り立たない。土地探しをはじめ様々な問題や条件を乗り越えるのに地域や周りの方々に常に助けて頂き、自分は本当に運が良かったと感謝している。その恩返しも含め、今後も自分たちの思いを込めたお客様目線の快適なサービスを作り上げて地域の皆様にご提供していきたい」と榎木理事長は今後の抱負を語る。（吉村謙一、前田 徹）